

くにこ！くにこ！ おもしろ歴史文化の国・「仁摩の郷」 －「仁摩の郷」造り・「仁摩の郷」巡り－

大田市立仁摩公民館

1 仁摩公民館の概要

仁摩公民館は、仁摩中央公民館として昭和47年に建設され現在に至っている。平成17年10月大田市・邇摩郡の合併に伴って、公民館の仕組みが新しくなり、平成21年度より7つのブロック単位ごとに新公民館が設置された。仁摩ブロックでは、「仁摩公民館」と、4地区（仁万、宅野、大国、馬路）に「まちづくりセンター」がそれぞれ新設されて以来、全町をあげ地域づくりに取り組んできている。

中でも仁摩地域での文化伝承活動として、これまで神話や昔話などの「読み語り」、神楽や各種芸能などの「伝統芸能継承」、また琴ヶ浜など海岸の「自然環境の保全活動」は、それぞれの地域で特定の町民の熱意により少しずつ受け継がれてきている。しかしながら、古墳群や硅化木などの遺跡等の保存管理等をはじめ、歴史や文化に対する多くの町民の意識は低く、郷土史等への関心も一部の人に限定されているため、今後仁摩の歴史や伝統文化への興味関心をどう高めていくかが公民館活動の課題の一つとなっている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

本事業は、今年度開催の「神話博」「石見銀山5周年」にちなみ、神話や古代からの歴史的視点で仁摩の各地域を見直し、文化資源の存在や価値を再認識する活動を考えていきたい。そして、それらを地域の共有財産としてまとめるとともに、後世に伝えていくことを目的にした「おもしろ歴史文化の国・『仁摩の郷』ごいせプロジェクト事業」を実施したい。本事業の主なねらいは次のとおりである。

ア 島根や仁摩の歴史的価値を再認識する活動を通して、その素晴らしさを学ぶとともに、「仁摩の郷造り」や「仁摩の郷巡り」を推進する組織づくりや具体的な実践活動を検討・実施する。

イ 神話や石見銀山に関わりのある郷土の歴史から、特色ある地域の「もの・ひと・こと」を探り、「仁摩の郷造り」（歴史文化ゾーンづくり）を推進する。

ウ 特色ある歴史文化を市民や次世代を担う子どもたちに伝える「仁摩の郷巡り」を通して、ふるさとへの愛着心や関心を育てる。

(2) 具体的な取組

ア 仁摩の郷造り実行委員会の設立 7/10(火) 19:30～

平成23年度から続いている「仁摩の文化活動を考える会」を発展させ、「おもしろ歴史文化の国・仁摩の郷」の「ごいせプロジェクト事業」を推進していく実行委員会を立ち上げ、計画実践をする。
(実行委員16名のうち12名参加)

イ 「仁摩の郷」造り

(ア) ガイドブックづくり (8/6～ 月1回程度開催)

実行委員会の中で「調査部会」を編成し、「ガイドブック」の執筆構想等について、協議検討中。

(イ) 紙芝居/DVDづくり

○ 中学生の紙芝居づくり

中学2年生4名が「国引き神話」を題材にした紙芝居を制作し、夏休みの読書子ども会で披露した。さらにDVD化し、文化祭で披露した。



神話紙しばい

○ 馬路地区の民話「馬路のくろえもん」

試行作品づくりとして、エプロンシアターの作品をDVD化し、馬路地区文化祭で披露。今後は図書館で貸し出し予定。



文化祭披露

○ 「仁摩の郷ウォーク」のDVD化推進

「仁摩の郷」(地域の特色)の収録。

(馬路の郷 9/29、大国の郷 10/20、宅野の郷 11/11、仁万の郷 12/23、仁摩の郷 1/30)

(ウ) 遺跡古墳の環境整備活動

期日：12/15(土) (参加者7名)

場所：坂灘遺跡、明神古墳の環境整備作業

(エ) 関連事業：「仁摩ふるさと講座・特別講演会」の開催

期日：12/9(日) (参加者63名)

1/20日(日) (参加者47名)

場所：仁万まちづくりセンター

講師：関和彦氏(島根県古代文化センター客員研究員)

内容：人麻呂さんの見た、「仁摩の郷」

(山陰道、国分寺霹靂神社、託農駅、柿本人麻呂関連など)



民話シアター



文化財環境整備活動



特別講演会

ウ「仁摩の郷」巡り（ふるさと講座・仁摩の郷散策ウォーク）

(ア)「馬路の郷」散策ウォーク

期日：9 / 29（土）（20名参加）

場所：馬路の郷（琴姫伝説と琴ヶ浜、
银山街道と鞆ヶ浦港関連）

講師：笠井誼則氏、松浦裕氏、
松浦良彦氏、山根俊隆氏



馬路の郷ウォーク

(イ)「大国の郷」散策ウォーク

期日：10 / 20（土）（18名参加）

場所：大国の郷（石見八幡宮の宝物、石
見城合戦、国引の神様と駒繋ぎ岩）

講師：尾川綽一氏ほか



大国の郷ウォーク

(ウ)「宅野の郷」散策ウォーク

期日：11 / 11（日）（12名参加）

場所：宅野の郷（韓島の神話と人麻呂、
宅野古道と往還道…）

講師：藤間元康氏ほか



宅野の郷ウォーク

(エ)「仁万の郷」散策ウォーク

期日：12 / 23（土）（18名参加）

場所：仁万古墳の郷（明神古墳：石見の
最大級の規模）

講師：長嶺康典氏（石見银山課文化財係）



仁万の郷ウォーク

- (オ) 「仁摩の郷」散策ウォーク・ガイド編
期日：1 / 30 (木) (15名参加)
場所：石見銀山第3街道を歩く
(ガイド編：仁摩と石見銀山関連)
講師：和上豊子氏ほか
その他：街道の整備作業等
1 / 24 (木)実施



仁摩の郷ウォーク

3 事業の成果と課題

(1) 「仁摩の郷造り実行委員会」の設立

「仁摩の郷造り実行委員会」を設立し、地域文化の再構築をめざした組織的な活動を開始することができたのは大きな成果である。

(2) 「仁摩の郷」造りへの活動開始

ア 「仁摩の郷造り実行委員会」の中に、調査部会を組織し、「おもしろ歴史文化の国」の「ガイドブック」編集作業を継続中である。(次年度完成予定)

イ 住民や子どもに伝える「仁摩の郷」造りのための地域文化財保存や普及資料の試行制作活動として、神話「紙芝居」制作や民話DVDを作成し、今後の活動の糸口とすることができた。今後への継続と活用方法が課題である。

ウ 「仁摩ふるさと講座・特別講演会」を開催でき、仁摩地域の古代のイメージを高め、住民の歴史や文化の意識高揚のきっかけづくりとなった。

エ 「明神古墳」「坂灘遺跡」等の環境整備作業を実施し、今後の文化財環境整備活動のきっかけづくりができた。継続化が課題。

(3) 「仁摩の郷」巡り

「仁摩の郷」巡りとして、5回の地域の歴史文化探訪型の市民の散策ウォークとして実施した。天候に左右されたが概ね予定どおり実施でき好評だった。今後は、散策内容の工夫や文化的価値のある物の掘り起こし、ガイド養成への意識づけ等の検討が必要であり、ワークショップを取り入れる等の協議検討をする工夫があればよいと感じた。また、子どもたちへの伝達が大きな課題である。

4 今後の方向性

「仁摩の郷」の中で何を特色づけるのかを模索中である。また、今後どう小・中学生を巻き込むか等について検討していきたい。